

スマイル

‘スマイル’と‘威厳’について勘違いしている人が多い。よほど厳粛な場でない限り笑顔は歓迎されこそすれ、忌みされることはない。古来わが国には、‘道’を究めるストイックな伝統があった。スポーツの世界でさえ、柔道、剣道、弓道のように厳しく道を究めるものであった。取り組む姿勢にも威厳や緊張感が要求された。修験僧のような鍛錬の過程で‘精神統一’‘明鏡止水’を追及し、‘威厳’‘真剣’を求められた。一方欧米では、スポーツは健康的に楽しむものとして、緊張とは対極にある‘リラックスゼーション’を求められる。良くも悪くもこれが、国際大会の勝負の結果に繋がっているとの指摘がある。

さて、近年日本人もリラックスすることに気を遣うようになったが、不慣れのゆえにどうも板に付いていない印象を受ける。ガムを噛んでは不作法に顔を弛緩させたり、勝負には不必要で危険なピアスや、ネックレスを身につけたり、或いは下品にヘラヘラしたり、およそ日本の伝統的‘威厳’や、欧米的‘スマイル’とはかけ離れている。

かつてアメリカ政府の高官が、「日本の外交官にどんな人を望むか？」と聞かれて、「笑顔のいい人」と答えた。それほど国を代表する外交官には笑顔が欠かせないと受け取られている。欧米社会では、どれほどスマイルが大切であるかということは、学校教育の現場を覗けばすぐ分かる。教師、保護者、生徒自身の笑顔が明るく、特に教える教師の笑顔がとて素敵なのだ。日頃から教師は子どもたちに‘Everybody!! Smile!’と声をかけ続け、学校施設内はいたるところ‘SMILE’の標語だらけなのである。

確かに日本人は、スムーズにスマイルが出てこない。スマイル・クリニックもあると聞くが、普段から他人にマイナスイメージを与えないようスマイルを心がけるだけで、かなりの効果がある。どんな世の中になっても幸せのおすそ分け、‘スマイル’は普遍の宝だ。

(近藤)